

・委員	浦田 太	吹田市立千里丘中学校 校長
	城下 英行	関西大学社会安全学部准教授
	藤浦 雅彦	吹田東高等学校 P T A会長
	本岡 直樹	吹田東高等学校 後援会会長
校長	佐々木 啓	吹田東高等学校 校長
事務局	井川 紀代子	吹田東高等学校 教頭
	芝野 雅人	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	山室 裕	吹田東高等学校 首席
	丸山 勉	吹田東高等学校 指導教諭

◆開会の挨拶 「大阪府立吹田東高等学校 校長 佐々木 啓」

◆議 事

○報告事項

(1) 第1回学校運営協議会について 【資料①参照】

本校佐々木校長より説明

- ・会長、副会長選出について前回通り承認お願いしたい。⇒ 承認
- ・前回協議事項、議事録の確認。

(2) 生徒による授業アンケート結果について 【資料②参照】

- ・アンケートについての説明

(井川教頭)

座学と実技で質問項目が少し違うが、観点は同じ。

教材活用以外は昨年度より少し上回っている。

アンケートの結果については教科担当者へ返却し、評価が2.8未満の項目があったものは授業改善委員会に今後の対策を検討し、報告する。

今回は記述の部分も各教員に返した。

教科・科目毎の集計結果については、科目によっては一人もしくは二人担当のものがあり、教科や科目ごとに返却すると個人が特定されるため今回は行っていない。

各教科で検討する為には今後は返却の方法を考える。

2学期中間以降に各担当で記述式の授業アンケートを取り、集約中である。

現在、教員間で公開授業週間を行っており互いに評価したり、参考にしたりしている。

今後の予定は2学期終業式時に第2回授業アンケートを行う。

(丸山指導教諭)

各担当で記述式アンケートを行い、授業に反映しているため第2回授業アンケートの結果が1回目より上回る傾向にある。

今年は研究授業として、初任者研修1名、2年目教員の研修2名、10年目研修1名が行われた。

Q 委員 学校全体として統括するとどうなるか

A 生徒自身の取り組みについての自己評価は例年通り非常に高い。
授業分析についてはやや低い所はあるが、生徒の分かりやすい授業と、教員がこういう力をつけさせたい内容や進め方について違いがあると思われる。このようなことについてはアンケート結果を授業内で生徒に報告し、教員の目的やねらいを説明するなどして生徒の理解を求めていく。

Q 委員 すべての項目を上げる事は難しいと思われるが、特に「生徒が興味・関心を持つことができた」や「知識や技能が身に付いた」という項目が上がるような授業作り・授業改善が大事だと思う。

A 授業アンケートが導入された時に重点を置いていたのがその項目であった。学校教育計画でもその項目が上がるのを目標としている。
また、グループ学習を取り入れている授業も多くなってきている。

(3) 教科書選定報告（山室教務部長）【資料③参照】

・選定経過、観点、理由について説明

Q 委員 選定の期間はこのような短期間なのか

A 例年は1カ月か2カ月ぐらい。

(4) 新校舎について（芝野事務長）【資料④参照】

・工事の進捗状況についての説明

工事は順調に進んでおり、来年6月末完成予定

A 生徒は2学期より新校舎に入る。そのため、7月末から8月にかけて引越しを行う。
8月23日から生徒入るので、関係機関にはその日の午後に披露し紹介する予定。その他については文化祭でオープンにする予定で進めている。

Q 委員 仮設校舎は新校舎に引っ越ししてから解体するのか。

A 予定では9月～12月にかけて解体を行い、グラウンドに戻す作業も行う。

○協議事項

(1) 学校経営計画の進捗状況について』

【校長より進捗状況報告】

・学校経営計画中期的目標・進捗状況説明【資料⑤参照】

Q 委員 働き方改革のことがあったが、学校の評価を上げたり考える中でそれとは相反することをしなければいけなく、業務が増えてきていると思うが、それはどうしているのか。

A 1つは、アンケートが多くなって、その集約の作業にも時間がかかるので、それを縮小する。
教員間で業務量にアンバランスがあるので、できるだけ業務精査をして残業を減らすようにしたい。
そのため組織改編を行い、首席が各分掌を統括し、分掌の仕事を平準化するためそれぞれが協力し合う。
また今後の学校運営の為に若手の育成においてOJTを使いながら首席がサポートしていく。
行事についても見直していきながら精査していく。
ただ、これらを実際進めていくことは非常に難しい。

Q 委員 これらを進めていくためにも教員数を増やす要望していくべきである。

A 要望はしていくが、府の財政を考えると難しいと思われる。

Q 委員 ICT活用について具体的に進められるのか。

A 新校舎に向けて要望は出しているが、予算面で難しい状況である。

Q 委員 授業アンケートの結果から、授業改善に向けてもICTを活用し合理化できれば時間も短縮できるので、今の子供は合理的なもの受け入れられる習慣を持っていると思うのでICTの活用によって合理的に行なえるものは受け入れてもらえると思う。

- A 授業でICTを活用することによって、内容は合理的に行なえ生徒もわかりやすいが教材準備に多くの時間がかかる。
- Q 委員 一度作成すれば繰り返し使えるのでは。
- A 内容が変わる事も少なくないので毎年同じものは使えない場合が多い。また、できるだけ教材を良くしようと次の日に内容を変えている担当者もいて、ICT教材の作成にかなり多くの時間を使っている。それも勤務時間の超過につながっている。
- Q 委員 教材の共有化というのがあるが、同じ事を指導するにしても担当者によって教え方や工夫の仕方に違いがあったりするのでは。
- A 今は一学年を複数の教員が担当している教科でプリントの共有をする等ぐらいしかできていない。
- Q 委員 教科の人数が多いところは共有もしやすいが、少ない教科は担当者の負担が大きくなるような問題もあると思う。
- A 少人数の教科の担当者は教材だけでなく考査問題等も複数作成するなど負担は大きい。
- A 授業の持ち時間がもう少し少なくなれば教材作成の時間も取れると思う。
部活動においても休日に出てきている教員がいる。
- Q 委員 自習室は土曜日も開けているのか
- A 土曜日の午前中は開けている。
- Q 委員 家庭学習がしづらい生徒の為には大事なことだと思う。
- Q 委員 ESPについて、生徒はどのような感想だったか。
- A ほとんどの生徒が高い評価だった。
- Q 委員 来年度も継続するのか。
- A 来年は同じ時期に新校舎の引っ越しがあるので7月の下旬を予定している。
- Q 委員 これに参加した生徒で来年オーストラリアの語学研修に参加する者もいるのでは。
- A 1年生はオーストラリアの語学研修は参加対象になっていないので、今回参加した1年生から来年申し込む生徒がいるかもしれない。

◆事務連絡

次回（第3回） 2月を予定。今後決定。